



## 市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれず、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2001年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は4回目)でレポートする。



養護学校に通うヒロ君(10)を車で迎えに行つて(写真右)夜まで森田さんたちと遊んだり、読書をしたりして、家庭的な雰囲気なかで過ごす。それぞれの生活状況に応じたきめ細かなサービスが行われている



# 利用者それぞれ生活状況にあわせて、きめ細かなサービスを提供する

## サポート・ハウスはお障害児・者とその家族のための生活支援サービス促進事業(埼玉県)

障害者やその家族にとって生活上の

悩みや苦しみは一生の問題であり、計り知れないものがある。特に介護をする家族の負担は重い。そうした障害児・者

と家族のために、生活にあわせた多様なサービスで支援できないものかと立ち上げたのが民間事業所「サポート・ハウス」である。知的障害児の入所施設で働いていた森田真由美(40)さんと篠崎澄江(32)さんの二人が99年7月に設立し、現在、2名の非常勤スタッフと運営している。

「施設で生活する子供たちのなかには、自ら望んで家族と離れ、入所してきた子は一人もいなかったように思います。ショートステイの受け入れやデイケアを担当したりしましたが、利

用者はそれぞれ生活も要望も違います。緊急の時でも受け入れることができず、きめ細かな生活支援サービスの必要性を痛感しました」(森田さん)

「ばおと施設の大きな違いは、最初に登録をすれば、電話予約で24時間いつでもどこでも必要なだけ利用できることにある。タイムケア、送迎、派遣宿泊や食事の世話などサービス内容は幅広く、対象者の年齢や障害の程度、利用するための理由も一切問わない。家族の急用や急病、冠婚葬祭などで利用するケースがほとんどだが、最近では、今までできなかったことへトライしたり、生活の幅を広げるための利用が増えているという。

「利用者から、困った時の、ばお頼み」と言われたときは、とても嬉しかった。夜中の介護のため毎日1時間以

上連続して眠れないお母さんが昼寝ができた、結婚記念日に夫婦二人で久しぶりに出かけた、障害児のこ兄弟の運動会や授業参観に初めて夫婦で行ってきた、と喜ばれています。障害児・者の介護は一生なんです。そんな家族の方の休息の時間とリフレッシュのために利用していただいていることに、とても意義を感じます」(篠崎さん)

「ばおでは、障害を持つ子供と一緒にボールや遊園地に行ったり、カラオケやゲームセンターなど親と一緒にいけないところに友だち感覚で同行することもあるという。公的なサービスではなかなか補いきれない「すき間」の部分や、利用者が求める「痒いところ」に手が届くようなサービスを提供しているのがばおなのだ。



「ばおが地域の障害を持つ人たちにとって、なくてはならない資源の一つに」と語る森田さん(右)と篠崎さん

# 「処罰から治療へ」。回復への動機をつくり薬物のない人生への歩みをサポートする

## フリーダム拘置所に収監中の薬物依存者へのインタベンション・プログラム(大阪府)

2001年度  
助成対象プロジェクトの  
団体名・活動内容・  
主な活動地域

新規助成

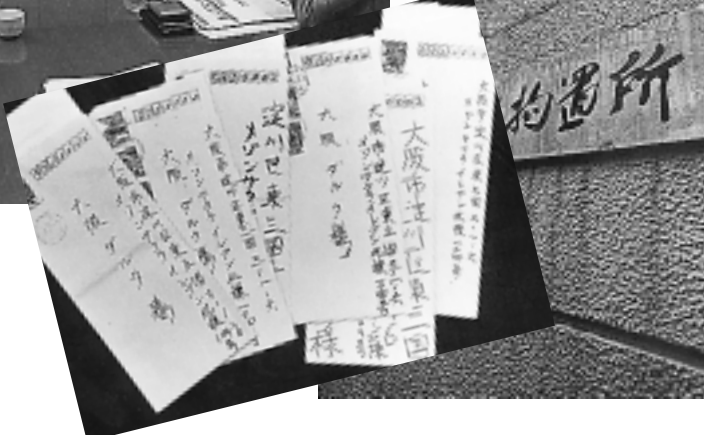
1	札幌市ホームレス者の健康支援と実態調査 北海道のホームレス者の健康支援を行う医師・医学生生会(札幌市)
2	障害児・者とその家族のための生活支援サービス促進事業 サポートハウスばお(埼玉県蓮田市)
3	暴力被害女性支援「自然派レストラン・喫茶Saya-Saya」事業 地域生活支援ネットワーク女性ネット Saya-Saya(東京都荒川区)
4	薬物依存症の青少年のための ケア事業 特定非営利活動法人セルフ・サポート 研究所(東京都江東区)
5	障害児・者に対する ダンスワークショップ 特定非営利活動法人ボーロニア 協会(東京都江東区)
6	DV被害女性及び同伴子の緊急一時保護事業 FTCシェルター(東京都)
7	ひきこもりサポートプロジェクト 日本アソシエイト協会の協賛(JACA) (東京都世田谷区)
8	山山介護支援事業 特定非営利活動法人自立支援センター あさひの会(東京都台東区)
9	思春期の自立と精神保健を育むピアサポート事業 ティーンズがび(東京都町田市)
10	不登校の子ども達のための 六浦共同生活舎生活体験合宿 特定非営利活動法人コンパスアカ デミ(神奈川県横浜市)
11	横浜町「さなぎの家」 なんでもSOS班 特定非営利活動法人さなぎ達 (神奈川県横浜市)
12	障害者の地域生活を支える 民間レスパイト事業 エビの会(愛知県名古屋市中)
13	釜ヶ崎地域における 「終わりなき」生活支援事業 木曜夜まわりの会(大阪府大阪市)
14	拘留所に収監中の薬物依存者への インタベンション・プログラム フリーダム(大阪府大阪市)
15	日本在住外国人のための 医療支援事業 社団法人まちづくり国際交流センター (奈良県橿原市)
16	不登校の子どもたちの健康と 体力づくりを考える 神戸フリースクール(兵庫県神戸市)
17	高機能広汎性発達障害の 子ども達のサポート事業 岡山県高機能広汎性発達障害児・ 者の親の会(岡山県岡山市)
18	10代の生と性を考える ドラマスクールin三原 みはらおやこ劇場(広島県三原市)

継続助成

19	ショッピングセンターの 機能を生かした福祉サービス 特定非営利活動法人自立支援セン ターフイア(青森県上北郡下田町)
20	チャイルドライン千葉 「子ども電話」 特定非営利活動法人子ども劇場 千葉センター(千葉県千葉市)
21	川崎ホームレス保健プロジェクト 「冬を生きぬき、春を呼びこめ」 川崎水曜パワールの会 (神奈川県川崎市)
22	中等教育を補う「コミュニティ スクール」の実現をめざして 特定非営利活動法人リベラニュー マサガ(静岡県三島市)
23	不登校児童・生徒の支援に係わる セミナー開催事業 特定非営利活動法人フレンヒュー マニティ(兵庫県西宮市)
24	精神障害者のための 「ついで」事業の普及と充実活動 障害者持ちながら自立と納得いく 社会参加を目指すふれあいセンター (沖縄県那覇市)



西浦克明氏をはじめとする大阪弁護士会と月に一度ミーティングの場を設けて、インタベンション・プログラムのさらなる充実をはかる(写真上)。拘留所で弁護士から「大阪ダルク」などの施設の存在を知らされ、回復へと意志を向けた薬物依存者や家族から多くの手紙が届いている(写真右)



この試みに、大阪弁護士会も共鳴。「フリーダム」の働きかけに月に1回合同ミーティングの場を設け、大阪地裁の全法律事務所ポストに「フリーダム」作成のパンフレット約2800部を投函するなど、インタベンション・プログラムの実践を後押しした。

「薬物の所持量や検挙回数で量刑はほぼ決まっています。実質的に裁判はセレモニーなんです。このような現状に無力感を感じ、違ったかたちで薬物関連事件に関われないかと問題意識を持っている弁護士の方たちが、行動を共にしてくださったというのが経緯です」(谷口伊三美理事)

弁護士とのやりとりの中で、回復へと意志を向けた薬物依存者には「フリーダム」から回復者の体験談を記した書籍が差し入れされる。必要ならば、回復者が拘留所に面会へと出かける。かつて自身も当事者だったスタッフは、このように話す。

その活動の柱は、拘留所に拘留されている薬物依存者へのインタベンション・プログラム。薬物依存からの回復者が、「大阪ダルク」などの薬物依存者回復施設や自助グループの存在を伝えることで、回復へのきっかけをつくりだそうというものだ。

行政や司法機関は、薬物の使用に対して処罰を重くすることで再発の防止に努めてきた。しかし、再犯も含めて薬物事犯の数は減少する傾向にはないなぜか?

被疑者の多くが、薬物の使用を統御できない状態(薬物依存症)にありながら罰せられるのみで、適切な回復プログラムに沿った治療を提供されないまま、社会に戻されているからである。そのような現状を鑑み、「処罰から治療と回復の機会づくりへ」というアプローチで薬物依存の問題に取り組んでいるのが、「フリーダム」である。



拘留所に差し入れされる、かつての薬物依存者たちが回復までの道のりを赤裸々に綴った書籍や「ダルク」を紹介するパンフレット。治療と回復へのプログラムへと通ずるファクターである

【ファイザープログラム】  
心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援  
2002年度 募集要項

1. 募集期間: 2002年7月1日～8月13日
2. 助成金:  
1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2003年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。  
1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動  
おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
- 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身のケアを支援する活動  
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
- 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動  
身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先: ファイザー製薬株式会社 企業文化部 03-3344-7524  
応募要項はホームページからダウンロードできます <http://www.pfizer.co.jp>

「私自身 精神病院に入院していたときに一人の回復者が面会にきて話をしてくれたことが、転機になりました。自分に正直になり、薬をやめるために具体的は何をすればいいのか考えることができた。同様に、拘留所にいる多くの薬物依存者がそういう機会を望んでいると思っんです」

同時に、多くの悩みを抱えている当事者の家族へのサポートプログラムも展開。電話や面接でのカウンセリングや自助グループへの橋渡しなど、多方面から回復への手助けを行っている。